



ファイザー・ファーマ株式会社

- 📍 営業所所在地 / 知多郡武豊町字5号地2番地
- 🔍 業務内容 / 医療用医薬品の製造
- 👥 従業員数 / 約660人(男性約370人・女性約290人)

Interview

能力発揮の阻害要因を取り除き
パフォーマンスを最大化する

時間も場所も制約ではない!「チャレンジしたい」が叶う環境

山内さん：休みを取ることを前提として、取れるようにするにはどうしたらいいか、

Q 意識的に取り組んだことはありますか？

清水さん：有休取得率80%が全社共通のコミットで、社長が明確に発信しています。24時間稼働の工場勤務において、全員で連続5日間以上の休暇を取ることを大々的に取り組ましました。最初の2年間は、全員取得を目指し「取らないのがおかしい」という雰囲気で行いました。上から取らなくてはいけないと言われるので、取りやすい雰囲気になり、それが当たり前になってくると、言われなくてもお互いに重ならないように日程を決めるようになりました。

Q 制度的に取り組んだことはありますか？

清水さん：2015年をめぐり、全社で働き方改革の推進に舵を切り、意識・制度・働き方の三位一体の改革を進めてきました。時間や場所に関する制限を限りなく取り払い、柔軟な働き方を可能にする制度を構築しています。フレックス制、在宅勤務、有休取得を積極的に推奨し、家庭の事情で使える休暇や女性特有の疾患に使える休暇などを制度化しています。

Q 早くから取り組まれています。どのような経緯がありましたか？

御社は多様な人が活躍する職場づくりに早くから取り組まれています。どのような経緯がありましたか？

清水さん：2015年をめぐり、全社で働き方改革の推進に舵を切り、意識・制度・働き方の三位一体の改革を進めてきました。時間や場所に関する制限を限りなく取り払い、柔軟な働き方を可能にする制度を構築しています。フレックス制、在宅勤務、有休取得を積極的に推奨し、家庭の事情で使える休暇や女性特有の疾患に使える休暇などを制度化しています。

Q 御社のどんなところに魅力を感じますか？

西川さん：身近な先輩がロールモデルになり、

Q 社内が変わったと実感する点は何がありましたか？

西川さん：有休を長い日数取れる部署が上手く業務をマネージメントしている、人が休んでも上手く回せるのはすごいチームである、チームやリーダーが評価されるようになった。私は小中高と3人の子どもを育てながら20年以上勤務しています。出産するたびに働きやすくなっていると感じます。

Q 「社員全員がイキイキ働く」を目指して活躍する女性チームがあると伺いました。

阪口さん：はい。「PWR名古屋」※というチームです。昨年結成され、現在7名が参加しています。愛知県の女性輝きカンパニーの認証を取得し、東京本社の女性管理職を招いて講演と交流を行いました。私たちが名古屋工場を取り組んだことを、本社へも発信し影響を与えていきたいですね。



Q やりがいを感じる時は？

山内さん：仕事を任されると実感する時ですね。1年目からほとんど仕事を任せられます。失敗しても責められることはなく、フォローとサポートをしてくれるのでチャレンジしやすい環境です。

Q 今後はどんなキャリアを目指していきたいですか？

西川さん：名古屋工場にしながら東京管轄の仕事にも挑戦していきたいです。弊社のフレキシブルな体制を活用すれば、家庭と仕事のどちらかを犠牲にすることなくチャレンジできると思っています。今まさに、名古屋工場にしながら東京管轄の仕事に挑戦しています。

※Pfizer Women's Resource

製剤部製剤グループ製剤二課
エフセレンスグループ
T.S.さん

製剤部製剤グループ製剤二課
M.S.さん

品質オペレーション品質保証グループ
E.N.さん

製剤部製剤グループ製剤二課
C.Y.さん



有限会社山下組

- 📍 本社所在地 / 知多郡武豊町寺町田176-2
- 🔍 業務内容 / 生コンクリート運搬
- 👥 従業員数 / 34人(男性 28人・女性 6人)

Interview

「話してもらう」ことを大切に
働きやすい職場づくりを推進

「女性もできる」PRと環境づくりで生コンを運ぶ女性が活躍!

Q 女性ドライバーを採用したきっかけを教えてください。

竹内さん：深刻な人手不足です。仕事があってもドライバーが足りず、求人しても来ない。これは大型免許を持つ男性の取り合いになっているので、他社と違つて女性を積極的に採用したいという気持ちがありました。

Q どのような方法で募集したのですか？

竹内さん：紙媒体の求人誌に「女性でもできる」「大型免許取得の補助あり」と、はっきりと書いたところ応募がありました。問い合わせも増えました。

Q 女性ドライバーは体力面に心配はありませんか？

竹内さん：ありませんよ。実は生コンを運ぶ仕事は、運転と機械操作なので力仕事ではありません。女性やシニアも活躍できる仕事です。大事なのは、現場でのコミュニケーション力です。生コンを降ろす場所や量、スピードをその場で聞いて、対応することが求められます。女性がいることで会話が和み、現場でのやりとりがスムーズになっています。

Q 今活躍している女性ドライバーはどんな方たちですか？

竹内さん：4人の女性が活躍しています。うち2人が子育て中です。保育園や部活の送り迎えもしています。

Q 男性社員とはどんなコミュニケーションをとっていますか？

竹内さん：男性は個人的なことはなかなか話さない傾向があると感じており、おやつを持って行って雑談をします。「最近暑いけど現場はみんな大丈夫？」「家族はみんな元気？」などの話から、ポロッと会社に対する要望や本音を話してくれます。「そういうことを考えているんだね。こちらも考えてみるよ。」と、社員の気持ちを把握し対策する会社の意志を伝えていきます。

Q 神原さんにお聞きします。

神原さん：下の子どもが小学校高学年になったタイミングで働きたいと思い、求人チラシを見て応募しました。家が近いことと経験のある事務仕事だったことで決めました。



Q 大変だったことはありますか？

神原さん：高学年とはいえ、夏休みに子ども達だけ家に置いておくのが心配でした。その時に先代社長の奥様が「明日から連れていってほしいよ」と言ってくれたり、現社長の子どもさん達と会社の庭でボール遊びをしたのは良い思い出ですね。

Q どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

神原さん：先代社長の奥様の仕事をそばで見ながら学んでいたところ、現社長が就任時にそのまま任せてくださいました。不安もあつたけれど、責任のある仕事があると社会として認めてくれるのは嬉しいです。

Q これから就職を考える人に伝えたい御社の魅力は？

神原さん：事務職の人には子連れ出勤でもいいよ、協力するよ。ドライバーさんには柔軟に休みを取りやすいようにフォローするよ。と伝えたいですね。